関東地区ＫＧＫ卒業生会ニュース

コイノニア

2018.11
第 42 巻 194 号

コイノニア（共有すること）…神との交わりからキリスト者との交わり、そして…

年間テーマ　和 解

巻頭言　「派遣意識～新しい地、人生の新しいステージで受け取る～」

田中 牧子

明治学院大学 99 年卒

「自分の中で漠然としていた神の輪郭がはっきりしてくるような感じ…！」

一緒に聖書から夫婦関係や子育てを学ぶ本の読書会をしていた幼稚園のママ友の言葉です。

夫が四国・香川県にある教会の牧師となり３年目。「○○ちゃんのママ」ではなく、お互いに名前で呼び合える友を求めていた私に、心深く分かち合えるようになった二人のママ友と読書会をする機会が与えられました。

週１回＠我が家。祈りで始め、聖書も開き、率直な分かち合いが続き、祈りで終わる。ランチをかきこみ、お迎えにダッシュ。子育てを通して、人格と格闘し、日々自分の限界に直面し、奮闘している仲間だから、御言葉の前にも、とても率直。聖書をプレゼントしたいけど、宗教 NG のご主人がいるので迷っていたら、自ら携帯で聖書アプリを購入し「夜、子供が寝てから少しずつ読むと心が落ち着くね」と言うママ友の姿に感動!

転勤のため引っ越され、読書会は６回で終了。最後の１回も、主からの深い取り扱いがあり、今も近くの教会に行きたいという願いを持ち続けているママ友に主の導きがあることを覚えます。

香川に来て、それまで与えられていた多くの交わりから離れ、専業主婦生活に。子供と向き合う毎日は、喜び以上にしんどいことも多く、一人ベビーカーを押しながら、「私はここで何をしているんだろう…」とつぶやき、孤独感と自分がない感覚に落ち込むことが特に１年目は多く…。

そんな私にとってこの読書会は「この人に会うために自分は香川に置かれたのだ」と主から今ここに遣わされていることを受け取る助けになりました。これからも主が与えて下さる出会いを信じて、自分も家庭もできるだけオープンにしていたいです。

●Contents●

p.1　巻頭言（田中牧子）
p.2　学び（塚本良樹主事）
p.5　家族のかたち（正田眞也/満/光）
p.6　学生伝道最前線（塚本良樹主事）
p.7　真さんと行く!!（小川真主事）
/グルメマップ（大嶋重徳総主事）
p.8　卒業生会報告ー
時をかけるブロッ祈 2018（根田恵多/高橋敦志）
/KGK ファミリーキャンプ(矢吹拓)/お知らせ(村岡綾)
p.10　職域別祈祷会～保育～（門脇光枝）/
良書紹介（横田真理恵）
p.11　会計報告
p.12　インフォメーション/編集後記

学

2019 年８月に日本で開催される EAGC*のテーマである「和解」。コイノニアでは今年度から２年間、この EAGC テーマに合わせ、「和解」をテーマに学びを展開することにしています。
「和解」と一口に言っても、そこには様々なテーマが内包されています。神との和解、家族との和解、友人との和解、隣国との和解……。コイノニアの読者のみなさんの中には、EAGC に参加する人も、残念ながら参加することができない人もいらっしゃることと思います。EAGC への参加／不参加に関わらず、KGK 卒業生が一緒にこのテーマに向き合い、学びを深めることができればと願っています。

被害者の悔い改め
～キング牧師から学ぶ「和解」～

KGK 主事
塚本　良樹

来年夏に日本でもたれる東アジア地区大会「EAGC」のテーマは「和解」です。一般には、和解という言葉は、裁判所などで使われ、「譲歩・妥協」というイメージもあるかもしれませんが、聖書で言う「和解」は、愛による関係性の回復を意味します。

聖書においては、「和解」はまず神と私たち人間の間でなされるべきものです。イエスさまが地に来られ、十字架にかかり、よみがえられたことによってもたらされた和解を、私たちは受け入れる必要があります（Ⅱコリント５：２０）。しかしそれに加えて主は、私たち人間が、人間同士で、あるいは被造物と和解することを求めておられます。

本稿では、マーティン・ルーサーキング牧師の思想と行動を通して、人間同士の和解について考えていきたいと思います。

キングの時代、彼が遣わされたアメリカ南部においては、奴隷制こそなくなっていましたが、「分離すれども平等」という原則のもと、ヨーロッパ系アメリカ人からアフリカ系アメリカ人は差別を受け続けていました。公共施設における分離は徹底的であり、当然ながら実際は平等に扱われることはなく、アフリカ系の人々が使う公共施設は明らかに粗末であったと言われ、またこれはキングの公民権運動の発端となったことでもありますが、バスの白人用座席が埋まっている場合、アフリカ系の乗客はヨーロッパ系の乗客に列ごと席を譲らなければなりませんでした。もちろん、高等教育を受け、豊かな生活をするアフリカ系アメリカ人もいました（キングもその一人でした）。しかし、奴隷の時代から続く負の連鎖（財産・教育の欠如）により、ほとんどのアフリカ系の人々は大変な貧しさの中に置かれていました。また、アフリカ系であるということだけで、侮辱を受けることは日常茶飯事で、ひどい場合は KKK などの白人至上主義団体からリンチを受けることすらありました。それでも、ヨーロッパ系アメリカ人は処罰されることは稀でした。偏見も多く（例えば、怠惰、知能が低い、性欲が強い、肉体労働に向いているなど）、またその偏見をアフリカ系アメリカ人自身が受け入れてしまっていることもあったと言われます（例えば、ヨー

*EAGC　East Asia Graduate Conference。KGK も加盟している IFES（International Fellowship of Evangelical Students/国際福音主義学生連盟）の卒業生が集う東アジア大会。

ロッパ系に近い容姿に魅力を感じる)。私がアメリカの神学校で学んでいたときのルームメイトは、フィラデルフィア出身のアフリカ系アメリカ人の学生だったのですが、彼に言わせれば、現代でもアメリカにおけるアフリカ系の扱いは根本的には変わっていないとのことでした。

キングは、まずは自分が遣わされた地であるアメリカ南部にある人種差別の問題に取り組みましたが、それだけに終わることはなく、世界を見つめ、やがてはベトナム戦争にも反対するようになりました。アメリカ側であれば独裁政権であっても支援する政府の欺瞞を見抜き、戦地で被害に遭うベトナム人や、貧しい人々が多いアメリカ軍の兵士たちを愛したからです。最後にキングは、人種を問わず貧しい人々のために立ち上がったのでした。わずか 39 歳で凶弾に斃れるその日まで。

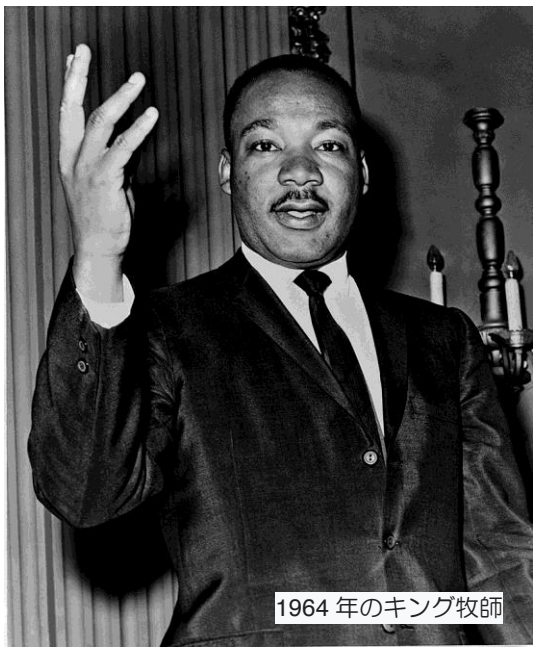
そのようなキングの思想と行動を現すキーワードがあります。それが「被害者の悔い改め」という概念です。実は、これはキングが直接使用した言葉ではなく、ミロスラフ・ヴォルフというアメリカの神学者が”Exclusion and Embrace”という書物の中で提唱した概念なのですが、私は、この概念はキングの思想と行動をよく表しており、和解のために必要な態度であると考えています。

ここで言う「被害者の悔い改め」とは、当然のことながら、被害者（個人であっても集団であっても）に、加害者がもたらした悪事の責任を負わせようとする考えではありません。歴史上、加害者が自らの責任を軽減するために、被害者に少しでも責任を押しつけようとすることはよく起こりました。もちろん、まず悔い改めるべきは加害者です。キングの思想と行動における「被害者の悔い改め」とは、和解のために、被害者だからこそ抱きやすい感情に抵抗することです。

キングはその説教で、人種差別・戦争・貧困の問題を何度も取り上げ批判していますが、その中で彼は強欲、憎悪、恐れ、無関心など、心の中にある罪の問題がそれらの具体的な問題の根本原因であると指摘します。人は、「神の豊かさ」に信頼しないゆえに「強欲」に陥ります。「神の正義」に信頼しないゆえに「復讐」を望みます。「神の善」に信頼しないゆえに「恐れ」に陥ります。「神の愛」に信頼しないゆえに「自己中心」に陥ります。罪が、人種と人種、国と国、富める者と貧しき者の間に強欲、憎悪、恐れ、無関心をもたらし、それゆえに人種差別、戦争、貧困などの問題が生じるというのが、キングの思想でした。

だからこそ、キングにとってのゴールは、単に悪の現象がなくなることだけではありませんでした。もちろん、彼は人種差別的な法律が廃止され、平等を保証する法律が作られることを、あるいはベトナム戦争が終わること、福祉制度が充実することを求めました。しかし、それは彼のゴールではありませんでした。彼のゴールは、加害者の心が変えられることであり、加害者との和解でした。キングはよく”Beloved Community”という言葉を使いましたが、これは「神に愛され、愛し合う共同体」という意味です。キングが目指したのは、加害者と被害者が共にあり、神の愛によって一つとなった共同体が形成されることであり、その意味での「和解」だったのです。

キングは非暴力という方法を取ったことで有名です。彼の運動においては、アフリカ系アメリカ人たちに危害を加えようとするヨーロッパ系アメリカ人たちに対し、暴力を使って撃退したり、復讐したりすることが禁じられました。あくまでも言葉によって、権力や、権力の悪を正当化・黙認しようとする人々を


1964 年のキング牧師

批判しました。またデモや座り込みも実施しました。キングは、正義の実現のためには、言葉による説得だけでなく、強制という手段も必要であると語っています。

もちろん、当局の露骨な嫌がらせに耐えられず、暴力を使ってしまう人々もいました。彼と同時代を生きたマルコム X というアフリカ系の指導者は、暴力によるヨーロッパ系アメリカ人への抵抗を目指しましたが、奴隷制に始まる彼らのあまりにも大きな苦しみを思えば、暴力を使用することを責めることはできないようにも思います。しかし、キングは非暴力にこだわりました。自宅を爆破された時も、怒るアフリカ系アメリカ人たちを、聖書によって説得しました。キングは、形だけ、暴力を使わなければ良いのではなく、心が大切なのだとも語っています。加害者たちを愛し赦すこと、彼らのために祈ることが必要であると言います。キングにとっては、被害者が勝利し、達成感を得ることがゴールではありませんでした。ほとんどの場合、加害者もまた被害者です。アフリカ系アメリカ人を差別していたヨーロッパ系アメリカ人も、実は社会的には貧困層だったり、様々な傷を持つ人がほとんどだと言われています。それゆえに、キングは加害者が癒され、変えられ、「友」となり、共同体が形成されることを求めたのです。

そのために必要なのが「被害者の悔い改め」でした。人間の罪は、人を強欲、憎悪、恐怖、無関心へと誘いますが、被害者もまたその誘惑を受けます。人間の罪は被害者を、加害者に復讐することに向かわせます。口では赦すと言いながらも、心の中で憎しみを醸成させます。あるいは、これは特に国家間や民族・人種間で起こることですが、加害者のさらなる攻撃を恐れるゆえに、加害者を悪魔のように見做し、叩き潰し、無力化することを目指させます。また、これは特に個人間で起こりやすいことですが、悪事を働いたその人との関係を断ち切らせます。もちろん、その感情は当然理解されるべきです。しかし、それは主が求めておられることではありません。主は和解を、共同体の形成を求めておられます。だからこそ、被害者が誘惑に抵抗し、その誘惑に負けてしまうときには、悔い改め、葛藤し続けながら歩む歩みが必要なのです。

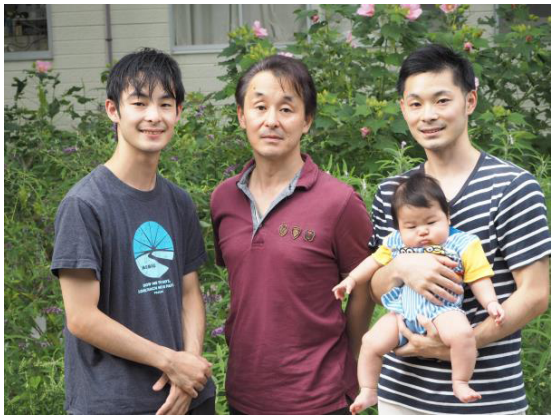
葛藤は、私たちが主に正直に祈り求めることへ導きます。キングが率いた公民権運動の集会では、黒人霊歌が歌われ、スピーチは説教のようで、さながら礼拝のようであったと言われます。被害者である彼らが悔い改め続け、主が彼らを、強欲、憎悪、恐怖、無関心から解放してくださること、加害者をも含めた共同体が形成され、和解が実現されることを、祈り求めたのです。

私たちも、主に祈り求めることから、始めていきたいのです。そして、私たち自身の周りから、遣わされた場所から始めていきたいのです。もちろん、キングがそうであったように、世界大の視点を失うことなく、教会の外の世界にも届く言葉で、ためらうことなく和解を語り、少しずつでも和解を実践していきたいのです。失敗しながら、しかしあきらめることなく和解を求めていくとき、主は必ず人を変え、世界を変えてくださるのです。キングとその運動を通して、確かに世界を変えてくださったように。

家族のかたち

このページでは、卒業生の皆さんのリアルな「家族のかたち」をご紹介します。

[父(中央)]正田 眞也
（近畿大学　1989年卒）
教会：福音自由教会
　　祝園（ほうその）チャペル
仕事：牧師
家族：妻、長男・次男、
　　長女(大３)、次女（高３）
趣味：子どもの成長を楽しむ。映画鑑賞
　　ゴスペルソングを作って歌う。
好きな食べ物：おうちごはん（妻の手料理）
　　特に玄米と肉（鶏肉）料理



[双子(右)]正田　満
（国際基督教大学　2015年卒）
教会：川口福音自由教会
仕事：中高一貫校の教師
家族：妻、息子（0歳）
趣味：映画鑑賞・写真・ギター・旅行
好きな食べ物：麺類・桃

[双子(左)]正田　光
（京都大学、2016年卒）
教会：立川福音自由教会
仕事：分析機器メーカー
家族：父、母、片割れ、妹×2、
趣味：散歩
好きな食べ物：たまご納豆ごはん

相手がいることで「助かっているなぁ」と思うことは？

二人とも⇒子育てを通して、神様との関係が深く育まれること。「育児は育自」の実体験。
満：物事の響くところの多くが同じで、いろんな話が出来る事
光：光の“楽しいことは、新しい価値観に出会うこと”という、私と違う、新しい視点に出会わせてくれる。

満：人生の節目（進学・就職・結婚など）において、父親として信仰の先輩、人生の先輩として御言葉から励ましとアドバイスをくれること。

光：信仰を継承してもらったことと、信仰や聖書についての相談相手になってもらえてること。

今だから言える○○は？

二人とも⇒双子なので、自我確立期（いわゆる反抗期）に分け隔てなく、向き合うことが難しかった時。一人ひとりと時間を作り、関わることは努力しましたが。
満：中学時代、心の内で考えていることが分からず、十分に聴いてやれず、表情が固まっていた時。人相悪かった。
光：つい３年ほど前、“神のリアリティ、存在が分からない”等、突然、根本的な問いを告げられた時。遅い反抗期！?と感じた。

満：中学の時、牧師館（教会の上）に住んでいるのが嫌すぎるのと、弁当に肉が入っていないのが不満で、壁に穴を数発空ける親子喧嘩を繰り広げた期間。

光：幼稚園時代、納豆入りのお弁当を作ってもらったこと→後日、幼稚園からにおい関連の苦情が。。。

相手と過ごした大切な「時間」は？

○家庭礼拝の時（挫折、チャレンジの繰り返しでした（笑））
○特に３～５歳までの就寝前の時間。両腕に抱いて話をしながら寝る至福の時でした。神学校時代だったので毎日の小テストの備えが出来ず寝る事もしばしばでした（笑）
○毎年恒例の家族キャンプ。全国２８ある国立青少年交流の家を制覇することを目指し、一緒に遊び、子ども達と時間と感動の共有体験をしてきたこと。残るはあと１４か所！

満：毎年夏、1週間ほど、全国の少年自然の家を巡った家族キャンプ。あとは食後のボードゲーム・トランプタイム。

光：毎年夏に国立青年（少年）自然の家でする家族キャンプでの時間。

相手を聖書の人物に例えると？

満：ヨセフ（ヤコブの子）
光：トマス（真理の探究者としての）

満：パウロ：回心してクリスチャンとなり、御言葉をいたるところで述べ伝えるところ。

光：アブラハム

最近、相手に言えなかった一言は？

満：親子でいれること感謝！　父として夫として、御言葉を土台にぶれずに、一家のリーダーとして、本物の自由を満喫し、使命に生きていって下さい。生涯、神様を、奥さんと子どもを愛し続けて！ いろんな意味で大した奴や！

光：親子でいれること感謝！光らしく与えられた能力を精一杯主に献げ、神様が造られた世界を健全に管理する者となっていってください。名前の如く、世の光、地の塩として。これからが楽しみや！

二人とも、愛してるで！

満：孫が生まれ、ここまで「じじバカ」になるとは（笑）
孫向けのビデオメッセージが大量に家族LINEに送られてきて、正直困っています（笑）

光：写真の時の決めポーズは新しく作ったほうがいいと思うで。

学生伝道最前線！

関東地区学生会発行の機関紙「CATCH」より記事を抜粋して、学生の声をお届けします！

渋谷ブロックGGS

担当主事：塚本良樹

渋谷ブロックには不思議な名前の交わりがある。その名もGGS。実は、この交わりは、私が9年前に渋谷ブロック役員だった2009年に始まった。当時も今も、渋谷ブロックには、学内にクリスチャン学生が1人、ないし数人であるために、グループ活動をもつことができていない学生が多い。比較的小さな大学や専門学校が多いからだ。

もちろん、たった1人であっても学内活動はできる。祈り、聖書を読み、友人に伝道し、主に与えられた使命として、主にあって学び、働くならば、それはKGKであり、学内活動である。そしてそれは生涯続いていく生き方である。しかし交わりで活動をする機会は必要だ。普段学内でグループ活動をしている方であれば、月に一度のブロック祈祷会で良いかもしれない。だが、学内にグループ活動がない学生にとっては、さらなる交わりの場所が必要なのではないか……。

そのようにして始まったのが「学内に（G）グループ活動がない学校のための（G）聖研（S）」である。はっきり言ってダサい名前だが、非常に深い意味が込められている。たまに間違えられてしまうが、二つ目のGは「学内活動がない学校のための」ではなく、「グループ活動がない学校のための」である。一人であっても学内活動を始めていく学生がここから起こされていくことを願っているからだ。

その後、月に一回だったり、毎週だったりと頻度の変遷はあったが、現在は月2回行われている。そして、場所は、最初は学内で行われていたが、場所の確保の難しさもあり、KGK事務所で行われていた時期を経て、現在は月2回のうち、1回はKGK事務所で、もう1回はグループ活動のない学校の学内か、その学校の近隣のファミレスでもたれている。そこはノンクリスチャンの友人を誘う場所にもなっている。これからも、GGSが用いられ、渋谷ブロックの学生宣教が前進していくことを心から願っている。

「献げる恵み」合宿

― 真さんと行く!!　全国卒業生会　徒然放浪記 ―

前号では８月に訪れた沖縄地区の報告をしましたが、今回は北に飛んで９月 15-16 日の北海道地区卒業生会合宿の報告です。実は今回の北海道地区卒業生会合宿、直前まで開催できるか分かりませんでした。それは、直前の９月６日に北海道で起きた地震の爪痕と大停電の影響がまだ残っており、無事に卒業生が集まれるか分からなかったからでした。ただ、被災地にいた卒業生自身が「ぜひ合宿で報告をしたい」と決意し、開催が決まったのでした。２日目のお昼には、被災状況を聞き、心を合わせて祈りました。

さて、今回の合宿のテーマはズバリ「献げる恵み」。私が２回のメッセージをし、また『ささげる恵み』のブックレットから聖研をしました。愛するひとり子すらも献げてくださった父なる神の愛。十字架で命を献げ、私たちにいのちを与えてくださったイエス様の犠牲。宣教の最前線で伝道を進めるパウロのことを献げ物で支えたピリピ教会の人々の姿。献げるとはどんなことなのかを聖書から共に学ぶ２日間は、本当に心燃やされる時でした。「自分ばかり献げているように思っていたけれど、何より神様が払ってくださった犠牲がどれほど大きいかを知りました」「献げることに躊躇する者だけれど、神様は献げる前から先行して働いておられる方であり、最善を成してくださる方であることを教えられました」といった声を聞くことができました。

関東地区卒業生会の４つの目的のうちの一つは「学生支援」。卒業生である私たちは、関東地区学生会を通して救われる学生が起こされるように、学生たちに信仰の成長があるように、良き信仰の仲間と出会うことができるようにと支援をします。

私たちは学生世界の祝福と福音の結実のため、今日も祈り、献げたいと思うのです。

小川 真 主事

（ヨウスコウサイカン）

～ 揚子江菜館 ～

No. 31

おおしまさんのグルメマップ

グルメマップも 7.8 年ぐらいになるだろうか。そろそろ出版してもいいんじゃないか（笑）。さてそれでもネタの尽きないのが御茶ノ水神田界隈。この街で目につくのはカレー屋、喫茶店……。だけじゃなく、意外と多いのが中華料理のお店。

実は日清戦争後、沢山の清国留学生がやってきて、その受け入れ先になったのが、明治大学をはじめとした御茶ノ水界隈の大学。中国人中学生のために発展したのが、中華料理店。今回紹介する 1906 年開業の揚子江菜館も、それ以来から現存する中華の本格的な名店。若き日の周恩来（毛沢東の右腕。田中角栄と日中共同声明に署名）が 1917 年から留学生として来ていて、ゆかりの店（漢陽楼）と並んで現存。ワンフロアは広くはないですが、５階まであって、行くと全員だいたい座れます。何より、揚子江菜館はただの歴史ある名店ではなく、冷やし中華の発祥の店（仙台という主張もあるが…）。冷やし中華（五色涼拌麺）は一年中食べられます。1510 円と、お値段は張りますが、富士山の様な稜線を描いたような盛り付けと、カラフルな具材がインスタ映え間違いなし。細麺の優しい感覚、麺を覆い隠す様に並べられたうずら、海老、インゲン、ハム、肉団子、春雨、シイタケ、キュウリ、錦糸玉子。何より甘酢仕立てのスープは完飲十分ありです。ぜひ他のメニューも試してください。上海料理専門店として、十分美味しいです。

時をかけるブロッ祈2018報告

根田 恵多　早稲田大学　１１年卒
高橋 敦志　電気通信大学　１３年卒

９月 15 日、頌栄教会で「時をかけるブロッ祈 2018」が開催されました。KGK の卒業生と学生が一緒にブロック祈祷会をやろうというこの集会、今年は新旧ブロック役員による座談会、聖研、祈り会を行いました。卒業生 66 人、学生 37 人が集まり、大変恵まれた集会となりました。参加者の高橋敦志さんが証しを書いてくださったので、ぜひお読みください！（卒業生加入問題委員会委員長・根田恵多）

時をかけるブロッ祈では、在学時に先輩と二人で細々と続けていた聖研が、今では国際色豊かなメンバーが加わり毎日ディボーションを行う活動になっている様子を聞くことができた。 当時を振り返ると、その先輩は新入生が与えられるように祈っていて、僕が入学し聖研に参加することを喜んでくれた。しかし、二人とも勉学で忙しく、同じキャンパスでありながら会うことも儘ならなかった。そのような中でも予定が合ったときはお互いのために祈り、祈り続け、我々の訴えに神がなんと答えられるかを聞き、感謝の祈りを捧げる学生生活だった。１年後には新入生２名が与えられ、初めて後輩と聖研の時をもった。また、多摩ブロックでは同期のクリスチャンと議論を交わし、神の名によって祈るところがあった。入学した大学にクリスチャンの同期や先輩がいるのは、当たり前のことではない。振り返ってみると、まさにそれは天国のようなものだった。

また、学生時代から交友のあった他大の先輩にも再会することができた。この者の話を忍耐強く聞いてくれた数少ない友人である。当時は様々な話題を議論したがっていた学生であり、話し合える友がとても欲しかった。しかし、（当然の事だが）一人ひとりの興味は異なり、話が合わないことも多かった。そのような中で、この先輩や、“共感”をもって話を聞いてくれた元主事の方との出会いがあり、その関係は今も続いている。相手の話を「聞く」という行為は、時間と気力がかかるもので、相手を理解したいと思う心の表れでもある。あの人が聞いてくれている、と思うだけで、心が元気になり、ワクワクする。そういう友人を持てた事も、嬉しく感謝なこととして思い出される。

多忙な日々を送る中で、歩みを振り返り、それが祝福されたものであったことを再確認することのできた時間だった。

クリスチャン夫婦の再点検　～KGK ファミリーキャンプに参加して～

矢吹 拓　群馬大学　１４年卒

私達夫婦は今年で結婚 10 周年を迎えます。子供達３人が与えられ、夫婦で仕事に家事に忙しいながらも楽しい毎日を送っています。神様からの豊かな祝福を感じる一方、夫婦で時間をかけて話し合ったり、ディボーションを持ったりする時間があまりないことへの葛藤を感じていました。

そんな中、9/23-24 に国立女性教育会館で開催された KGK ファミリーキャンプに参加しました。今回は「主にある夫婦関係～より強いきずなへ～」のテーマで李相勲（イ・サンフン）師・もも子夫人ご夫妻を講師にお迎えし、短時間ながらも濃密で大変恵まれた時間を過ごすことができました。

内容は“マリッジコース”と呼ばれる夫婦の時間の実践でした。マリッジコースのなかで、「Ⅰ.結婚生活の土台」「Ⅱ.夫婦のコミュニケーションは問題を解決する」「Ⅲ.対立（衝突）の解決」のセッションを李先生ご夫妻のリードで学ぶことができました。夫婦２人で話し合う時間が多く、神様が備え導いてくれた結婚生活の土台、お互いが普段考えていること、行動していることなどを点検し合う貴重な機会となりました。特に私達夫婦にとって“マリッジ・タイムを持つ”ことの重要性を認識し、その後も週１回実践するようにしています。

“もしひとりなら、打ち負かされても、
ふたりなら立ち向かえる。
三つ撚りの糸は簡単には切れない。“
伝道者の書４章 12 節

このみことばは、私達の結婚式の証で紹介したみことばです。結婚 10 周年を節目に、もう一度神様を真ん中にした夫婦関係を築いていくことを決意しました。導いて下さった神様に心から感謝します。

卒業生会よりお知らせ

村岡 綾　東洋英和女学院大学　０８年卒

関東地区卒業生会、全国卒業生会より、今後の予定をお知らせします！

●全国卒業生会主催　『クリスマスパーティー ～The First Noel～』
2018 年 12 月１日（土）12：00～15：30　永福南キリスト教会
伝道のためのクリスマス会です。
職場の同僚や友人を誘ってご参加ください！
お問い合わせ：小川真主事（ m.ogawa@kgkjapan.net ）

●卒業生会役員・コイノニア編集委員会・加入問題委員会　合同合宿
2019 年１月 11 日（金）～12 日（土）
今年度の振り返り、次年度テーマ・活動計画を話し合います。祈りに覚えて下されば幸いです。

●関東地区卒業生会主催　集会
2019 年２月 16 日（土）　時間・会場　未定
“家庭形成（信仰継承）”をテーマとして準備を始めます。

●卒業生会総会　＆　●退職主事感謝会
2019 年３月 23 日（土）　時間・会場　未定

詳細はホームページ、Facebook、
同期会メーリングリストにて
追って配信いたします！！

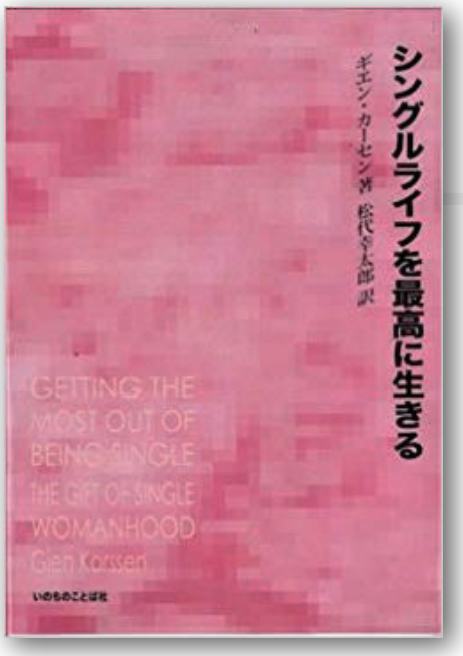
職域別祈祷会報告（ 保育 ）

保育祈祷会は子どもに関わる仕事に就いている人の集まりです。職場は保育園や幼稚園・児童館・障がい者施設など様々です。日々子どもたちと関わるのは、素直に可愛いと思える時もあれば、保護者や一緒に働く人との関係に左右されて、心が磨り減ってしまう時もあります。そこでまずは自分自身が神様から愛されている事、赦されている事を思い出し、自分に愛はないかもしれないけれど、神様の愛を知っている私たちだからこそ注げる愛を子どもたちに注いでいきたいという願いがあります。祈祷会では自己紹介・賛美・証し・分かち合い・祈りの時間を持っています。分かち合いでは証しを聞いて自分と重ねて感じた事やそれぞれの課題などを涙ながらに打ち明ける事もあります。年に４回を予定していて、土曜日の午後や夕方、平日の夜に企画し、一人でも多くの方が来られるように試行錯誤中です。

9月には関東地区主事である会田主事をお招きして、知的障がいを持つ方の生活介護事業所で教えられた証しを聞きました。神様は私たちに子どもたちの成長を信じて耐え忍び、期待する愛を与えて下さっている事、イザヤ55章8～13節からはどんな困難な状況にあっても進むべき道は神様の計画が必ずなる事を教えられました。目の前の問題に心を奪われやすい者ですが、神様の偉大な計画に期待して、失敗を恐れず、一つ一つの事に祈りながら忠実に向き合っていきたいと励まされました。

これからも証しを通して語られる神様の愛、赦し、そして希望に期待しつつ、自然と共感し合って祈り合える祈祷会を続けていきたいと思います。

門脇光枝　東京基督教大学　11年卒



良書紹介

「シングルライフを最高に生きる」

ギエン・カーセン著・松代幸太郎訳、いのちのことば社、2006年

この本を読んでいたら知人から「とうとう覚悟を固めたの！？」と聞かれましたが、そういうわけでもなく……（といいますか自らを主に委ねている以上、どのようにも覚悟を決めることはできないのですが……）今、もっと神様を喜ばせる歩みをと願い、読み始めました。

先輩方からは結婚後も孤独を覚えることはあると聞きますし、著者も既婚者もいつかはまたどちらかがシングルになると書きます。人はどのような立場であっても主の前に立つ一人の人間であり、人を満たすのは神様だけであることを教えられました。

独身時代を「本当の生活」の前の一時的な生活、単なる「未来の祭壇に積み重ねる燃料(C.S.ルイスの引用)」として考える危険に気をつけること、たとえ親となることがなくても、すべてのキリスト者に「霊的子孫を生み出す」使命が与えられていると書かれていたことが印象的です。キリストが来られてから人間存在の強調点は、地ではなく「天の御国を満たせ」に変わり、それぞれの立場でこの尊い使命に生かされていると教えられました。ともすると一方の恵みばかりが強調され、今与えられている恵みや使命に気づくことができない。そんな弱さに光を照らしてくれた大切な一冊です。既婚者の方にも、また女性に向けて書かれていますが男性にもおすすめいたします。

横田真理恵　立教大学　13年卒

INFORMATION

クリスマスパーティ～The First Noel～

【日時】2018年12月1日（土）12:00～15:30
【場所】日本福音キリスト教会連合 永福南キリスト教会
【問合せ】小川真主事（ m.ogawa@kgkjapan.net ）

イチゴの会

【日時】2019年1月5日（土）13:00～
【場所】KGK 事務所（OCC ビル3F）
【会費】８００円
‘81 期卒が中心メンバーですが、どなたでもご参加大歓迎です。大勢の方のご参加お待ちしています。

新しい家族です！

- 白石樹（茨城大 14 卒）&はんな（東京学芸大学 16 卒）信（のぶ）くん 2018/9/16 誕生
  - イエス様を信じてほしく信仰の信から頂きました。

※結婚・出産された方は是非、氏名・旧姓・卒業校・卒業年度・結婚/出産の日にち・コイノニア掲載の可否の情報を添えて、KGK 事務局（office@kgkjapan.net）までご連絡ください。

登録・変更フォームのご案内

新規登録・住所変更・結婚報告を
Google フォームで KGK に届け出ることができるようになりました。
新規の登録、住所の変更、結婚による氏名の変更、教会の変更など
このフォーム一つで行えます。
是非、右の QR コードまたは、下記 URL からご連絡ください。
http://goo.gl/forms/wEr0D5Mr6Qe040Rv2

メールマガジンのご案内

メルマガで学生たちの「今」を毎月受け取りませんか？
関東地区ではメールマガジンを開始しました。
毎月上旬に様々な関東の学生たちの「今」の姿を綴っていきます。
メルマガを登録して、学生たちのために祈りの輪に加わりませんか？
是非、右の QR コードまたは、下記 URL からご登録ください。
http://goo.gl/forms/WXvVnqyk7p

メルマガ登録

Web サイトのご案内

関東地区 KGK 卒業生会の Web サイトはコチラ：http://kantokgkobog.strikingly.com/
コイノニア電子版(PDF)もあります。

編 集 後 記

藤川 幸奈： 高田馬場の喫茶店にて「お店始めて何年ですか？」とマスターに聞いたら５本の指が掲げられました。50 年！また来ます。
関山 宜孝： シドニー出張は波乱万丈。海外で路頭に迷うのに慣れてきたよ！
佐田 守 ： 不安と平安の日々の中で、文字通り神様に生かされていることを知る。
小谷 枝薫： たけのこの里派だけど、きのこも美味しいと思う。
桑島 大志： 思い切って憧れていた丸眼鏡にしました。教会で「メガネ無い方がカッコいいよ！」と言われました。今日も元気です。
村岡 綾 ： ある映画に心奪われました。これが好き！と紹介できる映画に出会えて感謝。
小川 真 主事：来年、コイノニア紙面の全面改定を予定していますのでお祈りください。

発行：キリスト者学生会関東地区卒業生会　東京都千代田区駿河台 2-1　OCC ビル３階
TEL/FAX：03-3294-6916/6050　郵便振替：00170-1-83649　発行部数：1600 部/年４回